

水辺の 生物



カワガラス

スズメ目カワガラス科

写真提供：鈴木久司氏
校閲：橋口大介氏（株）野生生物保全研究所

カワガラスはチョコレート色の羽根色が光の加減で黒く見えるのでカラスという名がついているが、ツグミに近くカラスの仲間ではない。スズメとハトの間ぐらいの大きさと全長約 22cm。体重は 60~90g ほど。体の割に、尾羽や翼が短めで、ずんぐりしている。オスのほうが少し大きい、見た目では雌雄を識別するのは困難。

本種の最大の特徴は、形態的にはスズメなど普通の小鳥とあまり変わらないのに、水中で活動できることだ。スズメ目のなかで唯一潜水できる鳥として、ダーウィンの『種の起源』にも特殊進化した例として載っている。しかも、水に没して水底を歩けるという、他の水鳥には真似の出来ない特技がある。岩の上をひょこひょこ歩いてそのまま水中に没し、ケロリとしてまた歩いて上がってくる。水中を歩くときには、脚をアンカーにして翼で流れを受けて水が水底に押しつける力を利用していると言われている。足指には水鳥のような水かきはなく、足裏のスポンジのような指だこで濡れた石の上などでも滑らずに歩ける。川底の石をひっくり返したりして、主にトビケラ類、カゲロウ類、カワゲラ類など川虫を食べる。

繁殖期は 2 月から 6 月。最も早い時期に繁殖する鳥の一つで、早いものは 1 月に子育てを始めるケースもあるという。1 シーズンに 2 回繁殖する場合があります、多くの鳥が子育てをはじめ 4 月には早くも 1 回目の子育てを終え、2 回目の子育てを始めることもある。雌雄協力して、陸生のコケで直径 20~30cm のドーム型の巣を作る。よくあるお碗形の巣とは異なり、上部が覆われていて中ほどに開いた出入り口の穴から顔を出す雛の姿が見られる。作る場所は、滝の裏や崖、そして堰堤の水抜き穴や橋の裏などの人工物ということもある。

日本では北海道から九州屋久島まで分布している。山地溪流^{リゅうちよう}にすむ留鳥で長距離の渡りは行わないが、季節により河川の上・下流に移動しているという説もある。しかし、行き先が不明なことも多く、季節移動については謎がある。群れは形成せず、単独もしくは番^{つがい}で行動する。

参考文献：『日本動物大百科 4 (鳥類 2)』1997 年・平凡社刊
『鳥のおもしろ私生活』1997 年・主婦と生活社刊

これまでに紹介した「水辺の生物」のうち主なものを水資源機構ホームページに掲載しています
(トップページ右側「水辺の生物」をクリック)